

農政連だより

# みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

5  
月号  
No.233



## 主な内容

- ・熊本県農畜産物輸出促進協議会臨時総会
- ・石破農水相の来熊
- ・九州地区農政組織事務局会議
- ・JA 本渡五和青壮年部活動報告
- ・ガンバッテいきます：岸川孝徳さん、木村美保さん
- ・各連合会からのお知らせ

杖立温泉鯉のぼり (小国町：写真提供 熊本県)

3,000余りの鯉のぼりが群れをなして悠々と泳ぐ姿は、すばらしい眺めで杖立温泉の春の風物詩となっており、全国各地に広まったようである。夜のライトアップも一景である。

## わがわが

「世界の食料自給は、急激な人口増加と異常気象の頻発等により、中長期的に逼迫が予想される。こうした状況の中で、我国農業は脆弱化し、食料供給力が低下している。」(農水省・基本計画策定の説明)

平成十二年、同省は「食料・農業・農村基本計画」を策定し、農業の価格政策から所得政策への転換等を含め、平成二十二年に食料自給率四十五%達成を目指してきた。そして平成十七年、食育や地産地消の推進等を目指した同計画の改定を行った。今回、更に平成二十二年を目標として、同計画の改訂を行うために、「政策審議会企画部会」(部会長・鈴木宣弘東大教授)を設置した。この企画部会は、四月に「農政改革の検討方向」を策定し、農政改革関係閣僚会議で決定された。

この中で、農業は「産業として持続可能性喪失の危機に直面」しており、農村は「地域活力がますます低下」することを懸念する。このため改革の基本方向として、①農業が産業としての持続性の再生、②安定的な食料供給力の再生、そして③農村の活力の再生を掲げ、農業・農村の問題は、すべての国民の国家的な課題であるとした。

今回の基本計画では、十年後に、農地面積四百六十二万ha・耕地利用率百%を確保、そして食料自給率五十%の達成を目指すとする。このため、国を挙げての国民運動が必要であることを強調する。

しかしながら、前述の説明の中で、「農協などの農業関係団体はその役割がますます大きくなっているが、環境変化に対応した運営が十分にできなくなっている」と断言する。

本年は、三年に一度の「JA大会」の年である。JAグループは、これまでの取り組みの不十分さを総括し、その使命と役割を全力で果たすことを、国民の前に明確に示さなければならない。

# 東南アジアを中心に販路開拓

「熊本県農畜産物輸出促進協議会」の強化に向けて物流事業を行うJ A熊本経済連へ事務局を移管。

熊本県農畜産物輸出促進協議会は3月30日、J A熊本経済連7階ホールで臨時総会を開催した。

熊本県農畜産物の新たな販売拡大や需要開発を進めるため、熊本県農畜産物輸出促進協議会の事務局を、J A熊本経済連に新設した総合企画部事業開発課に移管した。



▲抱負を述べる上村 JA 熊本経済連会長

今後、東南アジアを中心にフェアの開催、見本市への出展、市場調査、商談会の開催およびバイヤーの招へいを行うなど県農畜産物の輸出促進に取り組むこととなった。

なお、構成団体は、J A熊本グループ、熊本県農林水産部およびJ Aグループ関連会社。



▲香港での熊本県産フェアから

# 石破農水相が次期衆院選の応援で来熊

熊本市田崎市場やJ A熊本市野菜選果施設などで支持を訴えた。

4月11日、石破農水大臣が次期衆院選の熊本2区で出馬予定の林田彪氏の応援で来熊、講演した。

同市田崎町の熊本大同青果せり場内で行われた時局講演会では、「今回の経済対策に盛り込んだ農林水産業の活性化策などをアピール、これからの日本を支えるのは、農林水産業しかない。皆さんとともに農林水産業のため全力を尽くしていきたい」などと熱弁を振るわれた。

この後J A熊本市野菜選果施設、同夢未来柑橘選果場、J Aたまな中央みかん選果場で支持を訴えた。特にJ A熊本市野菜選果施設ではJ A組合員をはじめ、生産部会代表やJ A役職員などを前にして挨拶、また、横田健J A組合長が農業・農家にとつての喫緊の課題を訴える要望書を石破農水相に手渡した。



▲会場の熊本市田崎町の青果市場は、多くの支持者でいっぱいになった。



# 九州地区農政担当事務局長が 熊本に

熊本市内で九州地区農政組織事務局会議を開催。

3月27～28日、熊本市内で福岡県をはじめ8県の九州地区農政組織事務局会議を今回初めて開催し、各県の活動状況や課題について熱心な討議を行った。

当日は全国農政連の松岡幹事長代理が出席し、①現在の農政を取巻く状況②農政運動組織の組織基盤の強化③農政運動の財政基盤の強化④農政運動の

活性化⑤国政選挙対策についての現況や課題について説明があった。

最後に今後の九州地区の農業と農村を守るために、「農政運動を強化・発展させるためには九州は一つにならないければいけない」と九州地区が一致団結して農政運動に取組むことを確認した。今回は鹿児島で開催することとして閉会した。



▲あいさつをする江 JA 熊本中央会常務



▲松岡幹事長代理が農政状況について説明



▲組合員と会話される石破農水相



▲ JA 熊本市野菜選果施設であいさつをする石破農水相



▲熱心に聞き入る組合員や生産部会代表など



▲横田 JA 熊本市組合長が要望書を石破農水相に手渡した

# 青壮年部活動報告

■ JA 本渡五和 ■

JA本渡五和は、藍い海と緑の山に囲まれた自然豊かな地域です。天草市の中央に位置する本渡五和管内では、デコポン・ポンカン・あまくさ晩柑等の柑橘類、味が自慢の天草黒毛和牛が有名です。又、春先より、バレイシヨの出荷やビワの収穫が始まります。

さて、JA本渡五和青壮年部の紹介に入ります。125名のユニークな盟友で年間いろんな活動を行っています。JA主催の農業祭では、各支部が集まり味自慢コーナーにて、焼きそば・たこ焼き・おこわ等の販売を行いました。食品偽装や輸入農産物への不安が高まる中、消費者へ食の安全を対面販売にて伝えていきます。その際、空き缶ポイ捨てチラシ等の配布も行いました。他にも、基本農政確立研修会と題し、女性部や各専門部会・JA役職員と協力し、約300名で農政学習会を毎年行っています。その後各支

部に別れてボーリング大会で意気投合し、終了後は、もちろんビールで乾杯です。昨年から新しい活動として、JA女子職員と独身盟友による交流会を行いました。日々の忙しさで、なかなか時間を作ることが難しい盟友にとつて、とても楽しい一時を過ごせました。その他に、個々の経営を説明する支部研修会、水稲の共同防除、地域のふるさと祭り等に参加しました。

今後もJAのそして地域の中心として、盟友一丸となつてがんばっていきます。



支部研修会の研修風景 (楠浦支部)



空き缶ポイ捨て禁止チラシ配り (子どもに大人気)



支部研修会の研修風景 (本町支部)



女性職員との交流会



支部対抗によるボーリング大会



岸川 孝徳さん  
JAくま メロン部会長

JAくまのメロン部会長岸川さんのお宅を訪問しました。

春メロンの出荷の準備で忙しい中、取材に応じてくれました。

岸川さんは、昭和33年1月生まれ。高校を卒業してから城南にあった高等農業学園専門部に入学され1年間、普通作物について基礎知識を学び、翌年から農業後継者として従事するようになりました。

現在、水稲320a、大麦400a、アンデスメロン60a、肥後グリーン20a、夏秋キュウリ40aを栽培されています。

### ■園芸作物と部会

長年、イ草、プリンスメロン、水稲の複合経営をしてきましたが、中国産イ草の台頭で平成13年、強化連棟ハウス導入により春メロン、夏秋キュウリなど園芸作物に切り替えることにしました。

ハウス栽培は、徹底した温度管理が必要で

す。また、土壌作りが大事で線虫退治や病気の発生を抑えるために、徹底した太陽熱消毒をしながら化学肥料や農薬の低減に努めています。このように手間隙かけて、安全でおいしいメロンの栽培に心がけています。

また、「最近、高齢化、後継者不足の中で、生産者や栽培面積の確保などの課題を抱える厳しい環境です。部会一丸となって共販体制の維持に取組みたい」と抱負を語っていました。

### ■記憶に残る出来事

メロン栽培の中で思い出すのは、「約10年前に大雪が降り、定植したばかりのメロンハウスが倒壊したことです。又、平成18年には残留農薬問題でトレーサビリティに取り組んでいたとき、種子消毒の手違いがありました。ネットが入ったアンデスメロンを株ごと引き揚げざるを得なかったことなどを鮮明に思い出します」と当時を語っていました。

### ■新しい取り組みを

「今年3月、加工場が完成し、そこで摘果メロンやキュウリを使って、漬物や米菓子などを作り、地元の物産館に出品しています。

このように、農産物を無駄にせず付加価値を付けて、加工品として販売するなど、夢を追いつながら農業を楽しく続けていきたい。」と笑顔で応えていました。

### ■好きな言葉

努力の上に花が咲く「農業は自然相手で大変だが頑張り続けたら、きっといいことが訪れる」と話してくれました。



木村 美保さん  
上益城フレッシュミズ「ル・レーヴ」

### ■山都町に暮らして

木村さんは山都町の出身。現在のご主人と十三年前に出会い、結婚。今では三人の子供に恵まれ、ご両親とともに暮らしています。

「家族の人数が多いので、食事の用意が毎日大変ですが、作りがいがあり、つい作り過ぎています。」

### ■キャベツ農家として

木村さん宅では、春キャベツを2ha、夏秋キャベツを15ha、米を1.8ha、シイタケを八〜十萬斤栽培しています。

「キャベツの収穫は六月から十二月まで、毎日あります。天候に左右されながらの農業ですが、品質のいいものができ、高値がつくと嬉しくなります。」

四〜五月末までは、春キャベツの収穫期。家族総出で、収穫作業に大忙しだそうです。

そんな忙しい中での楽しみは、仲間内の交流会です。フレッシュミズとは別の、キャベツ部会や近所などの集まりで時々行われます。皆でわいわいおしゃべりして楽

しむので、お酒が飲めない人でも楽しめるそうです。

### ■フレッシュミズでの活動

上益城フレッシュミズ「ル・レーヴ」は、平成十一年に女性部有志から結成され、現在十五名の会員で活動しています。木村さんは、結成と同時に入会されました。

主な活動として和菓子作り、料理講習、研修旅行等を行っています。

和菓子作りと研修旅行は、親子参加が可能で、こちらも好評だそうです。研修旅行では、今までに人吉のひな祭りや、阿蘇のミルク牧場に行きました。また今年度からは、手芸を始めようという計画だそうです。

### ■今後の期待と抱負

木村さんは今後の抱負として、「まず会員を増やすこと。また、青年部と合同で菜園作りを企画しています。学校や、保育園の空きスペースを利用して、園児や学生にも参加してもらおうと計画しています。」と語ってくれました。



▲JAかみましき女性部矢部合同総会の様子

## J A 農業インターン事業に過去最多の41人

J A 熊本中央会は1日、将来の地域農業の担い手を育成する2009年度「熊本県J A 農業インターン事業」（事業実施者 J A 熊本中央会、事業主体 J A 熊本県）の開講式を熊本市で開き、これまで例年14人だったのが、最も多い41人が入講しました。式には研修生、受け入れ農家、J A、行政関係者120人が出席。

まず主催者として園田俊宏中央会会長が「この1年、地域の暮らし、J A の理念をしっかりと勉強し、ぜひ就農してほしい。就農支援ネットワークで全面強化したい」と激励し、1人1人に辞令を手渡しました。

この事業は、担い手育成対策の一環として、他産業に従事していた就農希望者を全国から公募し、農家で11ヶ月間実践的な農業研修を行い、自立できるように支援するもので、今年が5回目。これまで05年度から08年まで48人が入講し、33人が就農し独立し、担い手として活躍しています。

09年度は、これまでと異なり、同中央会が農業研修生（中央会臨時職員）として雇用し、受け入れ農家等へ出向（出張）させるというもので、賃金もこれまでの倍額で月13万5000円（住宅手当等含む）が支給されます。また、

J A や県普及振興課、市町村等と強力な就農支援ネットワークで就農定着を図ります。

今回は、50人の募集に対して61人が応募し、面接選考で41人の採用となりました。

研修生の内訳は、男性36人、女性は5人で、インターン（新規参入者）が30人、Uターン11人で、内県外から8人（海外から2人）となっています。希望種は有機農業が17人と40%を占め、その他施設園芸が多い。年齢は20歳代と40歳代が多くなっています。

これから農家実習を軸にJ A 実習、中央会の就農セミナー等を見つちりと学びます。



▲園田会長から辞令を受け取る研修生

## 献茶祭くまもと新茶まつり2009

熊本県茶生産流通協議会は、5月1日、「献茶祭くまもと新茶まつり2009」を熊本市のびぶれす広場で開催しました。多くの消費者に新茶のすばらしさを幅広い年齢層へアピールするのがねらい。

八十八夜を前に、茶摘み用のかすりの着物を着た職員らにより、今年の初



▶大勢の来場者でにぎわったくまもと新茶まつり

摘み新茶を3回に分けて600名に無料配布。また、日本茶インストラクター協会のインストラクターによるお茶のおいしい淹れ方のデモンストラーションや、新茶の試飲を行いました。訪れた消費者からは、「とてもおいしい。是非家でも試してみたい。」という声がかれました。

また、J A 熊本経済連茶業センターより、「森のくまさん」茶の販売会も併せて行いました。

八十八夜である2日は、熊本市の藤崎八幡宮で茶の豊穰を祈る恒例の献茶祭を行い、県、J A グループ、県茶商組合、県煎茶道連盟など約40名が参加。また、介護老人保健施設「かなこぎ苑」を訪れ、献上茶の贈呈と試飲を行いました。本年産茶は、遅霜の影響もなく、連休には最盛期を迎え、芽揃いが良く、色・味・香りの三拍子揃った良質なものになっています。



▶介護老人保健施設での献上茶の贈呈

## 目標必達に向け「平成21年度 J A 共済普及推進大会」開催!!

〔組合員・利用者〕に選ばれ、信頼される J A 共済

去る4月17日(金)、熊本市内において各 J A の組合長・常勤役員・参事・担当部課長・ L A 、約520名参集のもと「平成21年度 J A 共済普及推進大会」が盛大に開催されました。

大会の表彰では、平成20年度全国優績組合に対して、 J A 共済連 今尾理事長からの招待状の授与につづき、県本部優績表彰組合・ L A 年間優績者に対して、園田県本部運営委員会会長より表彰状と副賞が授与され、その功績が讃えられました。

その後、桑野本部長より21年度の普及推進活動の重点取組事項である「3 Q 訪問プロジェクト」の徹底や、自動車・自賠責共済の取組強化についての説明が行われ、その実践に向けて意識の結束が行われました。

式典の最後には、各 J A 代表によるダルマの入暈、各 J A 代表の L A 13 名による今年度の目標必達に向けたガンバロー三唱が高らかに発声されました。

また講演では、ロサンゼルスオリンピック体操金メダリストの森末慎二氏による「あくなき挑戦」と題しての講演が行われ、大きな夢を持ち目標の実現に向けて進んでほしいとユーモアを交えながら語っていただきました。

平成21年度 各 J A の早期目標必達と組合員・利用者へ選ばれ、信頼される J A 共済を目指していきます。



▲ L A 優績表彰



▲森末慎二氏講演

## J A 熊本市天明支店振込詐欺を未然防止!

J A 熊本市の天明支店で、60歳代の顧客女性が振り込み詐欺に遭おうとされましたが、職員の機転の利いた対応と日頃の信頼関係により未然に防止しました。

事件は3月初旬に起きました。窓口へ来店された女性が、携帯電話で話しながら慌てて振込用紙を提出されるのを女性職員が不審に思い、上司に報告しました。森義成支店長らは振り込み手続きを見合わせ、振り込み詐欺防止のチラシなどを持って女性宅を訪れました。

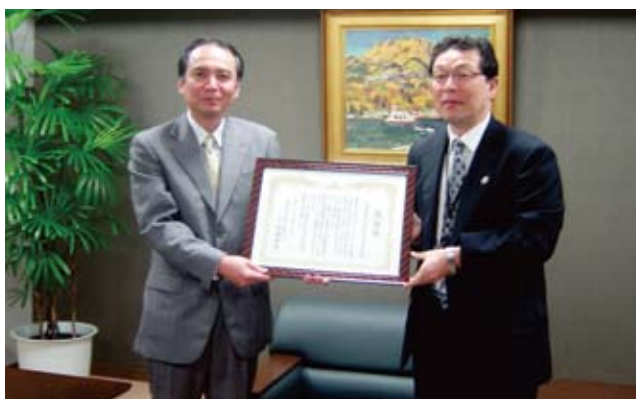
しかし、女性は「大丈夫」と振り込み依頼を譲らず、同支店は仕方なく手続きを始めましたが、振り込み先の銀行口座が入金できなくなっていることが判明しました。詐欺であると確信し再び女性宅を訪れましたが、それでも女性が納得せず、今度は現金を引き出しに来店されました。

他の金融機関から振り込みを行なう可能性があるので、日頃の集金などで女性と週1回顔を合せている同支店の井上善貴さんが女性宅を訪れ、また支店からの通報で熊本南署員も同行しました。口を閉ざしていた女性に井上さんが優しく諭すと、女性は少しずつ事情を説明し始めました。説明によると、

息子を名乗り、示談金名目で振り込みを要求する典型的な詐欺だと疑われる内容でした。その後息子と連絡を取り、詐欺だと判明し、無事に被害から免れることができました。

これを受け、農林中央金庫熊本支店は4月15日(水)、 J A 熊本市天明支店を表彰しました。同金庫伊藤博通支店長が「日頃より顧客との信頼関係を深め、詐欺被害を未然に防いだことは、 J A バンクの模範であります」と森支店長に感謝状を贈呈しました。

森支店長は、「今後も顧客との信頼関係を深め、身近に起こりうる「振り込み詐欺」の被害がないよう、日々気をつけていきたい。」と語られています。



▲表彰を受けられた J A 熊本市天明支店森支店長(左)と農林中央金庫熊本支店伊藤支店長

# あしがき

●ペゴニアは、5月から秋頃まで花壇や玄関先で長く楽しませてくれます。



## 五月に咲く花「ペゴニア」

ペゴニアは、フランス領アンティル諸島の総督ミシエル・ペゴンの名からとったものです。

ペゴニアは、原種だけでも2000種もあり、交配・改良で木立性、根茎性、球根性など多くの品種が生み出された魅力的な花です。

日本にもニュウカイドウという中国産の植物が本州以南の木陰で自生しています。

(花) (花) 幸福な日々

シユウカイドウ科 多年草 亜・熱帯地方

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（J A本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-1328-11284  
FAX 096-1326-15807

## 訂正とお詫び

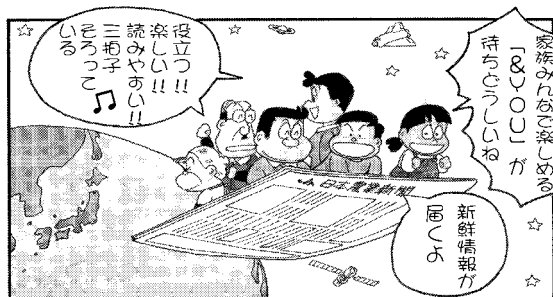
◆4月号の表紙の写真説明で「市房ダムが一房ダムに又、「せせらぎ」の文書で4月が3月になっておりましたので訂正いたします。

# 食と農 ひらく未来へ確かな目



「食と農のかけ橋」面を創設

食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて産地へ価値ある情報を発信します。月曜日から金曜日まで終面カラーで届けます。



紙面を刷新▶情報を素早く分かりやすく

役立つ情報を毎日▶農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載・気象見通しを強化

JAグループ

## 日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円

JA熊本中央会

## JA共済

一軒一軒お伺いして、お会いして、お話しする。そして、みなさまの本当に望まれることに気づき、お一人おひとりに合った保障をご提案する。それが私たちの目指す安心です。

だから、JA共済は地域のみなさまへの訪問活動をこれからもずっと続けていきます。

あなたのお宅へも。サンキュー訪問でお伺いします。



●詳しくは、お近くのJA（農協）へお問い合わせください。■ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp> ずっとサンキューキャンペーン実施中！ <http://www.3qja.jp> 右記QRコードからもご覧いただけます。



09481050138

# 春から始めましょう。学費の準備。JAの定期積金



JAバンク 熊本

お子様の、学費の準備はお早めに、月々ふりなす定期積金。

# 新茶

2009



玉緑茶「匠」

熊本県下の茶匠が育てた「精製み茶使用」熊本県下の茶匠が育てた一番摘み茶を厳選し、成分分析を基に独自のフレンド技術と火入れ技術で仕上げました。豊かな香りとコクのある甘み・あざやかなグリーンが魅力の玉緑茶です。

【緑茶組成成分】全窒素6.0%  
全遊離アミノ酸3.5%  
テアニン2.0%以上



玉緑茶「優薫」

一番茶特有のさわやかな香りとほどよい甘み。グリーンの水色が魅力の玉緑茶です。

■内容量/玉緑茶100g

JA熊本経済連 茶業センター